

平成30年度岡山市学力アセス
調査の概要 岡山市教育委員会

1 調査の目的

- 児童生徒一人一人が自己の学習状況を把握し、今後の課題を明確にする。
- 調査結果を活用し、各校において教科研究の推進及び授業改善を図る。
- 児童生徒の学力状況を把握し、教育施策に反映する。
- 問題作成及び結果分析を教員が行うことによって、人材育成及び資質向上を図る。

2 調査の実施期間 平成30年4月17日（火）～19日（木）

3 調査の対象 岡山市立小学校第4・5学年児童 岡山市立中学校第1・2学年生徒

4 調査の内容

(1) 調査対象教科 小学校・・・国語・社会・算数・理科
中学校・・・国語・社会・数学・理科・英語

(2) 出題内容等

- ア 学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、出題範囲は、実施学年の前学年までの学習内容
- イ 基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等にかかわる内容を出題

5 実施状況

校種区分	対象校数	対象学年	受検者数
岡山市立小学校	89校	第4学年	6,109名
		第5学年	6,203名
岡山市立中学校	38校	第1学年	5,498名
		第2学年	5,528名
総計	127校		23,338名

6 岡山市の学力の状況

(1) 平均正答率

数値は% ()内は前年度

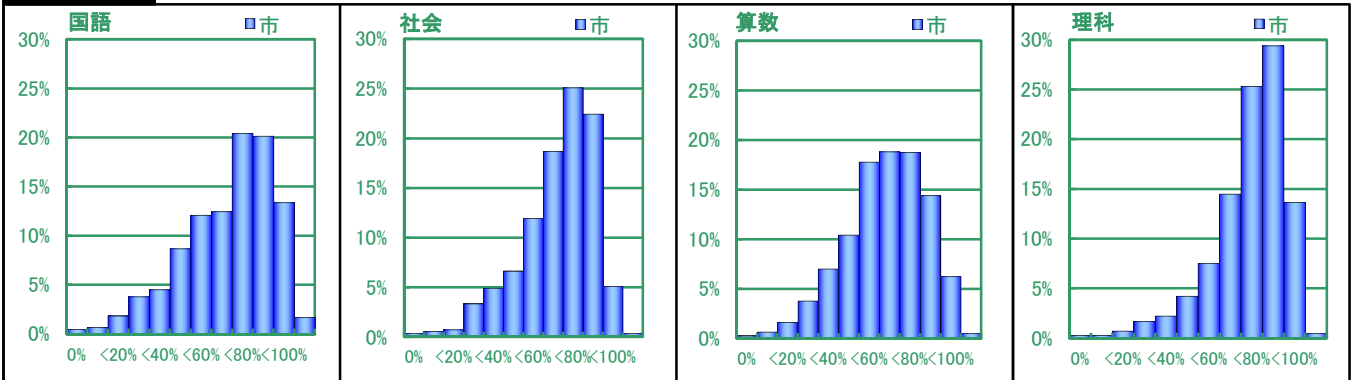
	学年	国語	社会	算数・数学	理科	英語
平均正答率	小4年	68.3(67.4)	67.3(61.9)	62.7(67.7)	72.4(71.1)	
	小5年	71.7(69.2)	71.3(73.8)	63.3(63.6)	70.2(65.2)	
	中1年	67.1(71.7)	69.9(59.8)	58.3(61.1)	63.3(70.1)	79.2(88.8)
	中2年	72.4(75.6)	60.1(59.4)	53.6(58.8)	58.0(58.2)	58.1(66.2)

(2) 無解答率

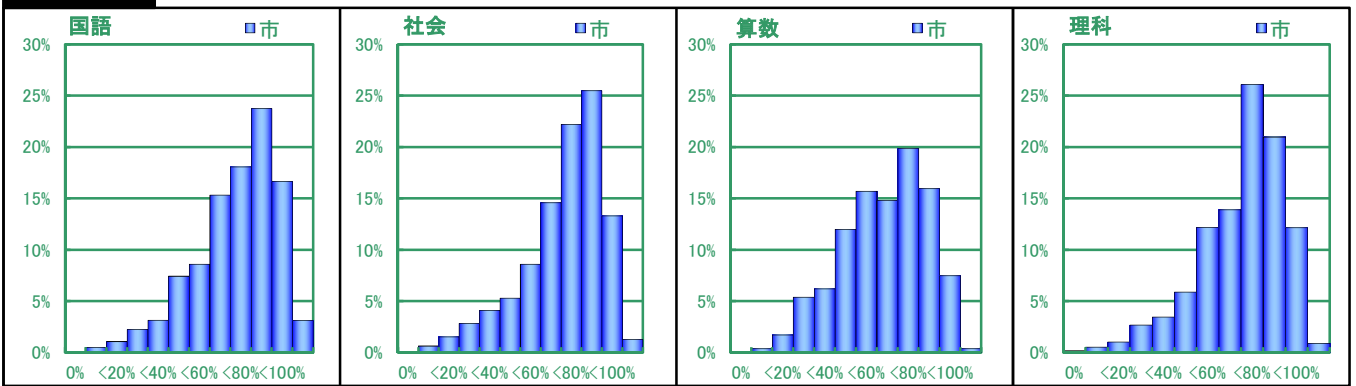
	学年	国語	社会	算数・数学	理科	英語
無解答率	小4年	7.5(6.7)	7.4(9.8)	6.5(5.8)	3.0(3.2)	
	小5年	5.0(4.5)	5.2(4.1)	6.2(6.0)	3.4(3.8)	
	中1年	4.5(5.8)	2.5(3.9)	8.2(5.8)	3.4(2.7)	1.0(0.5)
	中2年	5.8(4.8)	7.8(6.4)	9.5(6.7)	5.2(5.0)	8.1(6.4)

(3) 正答の状況(正答率度数分布)

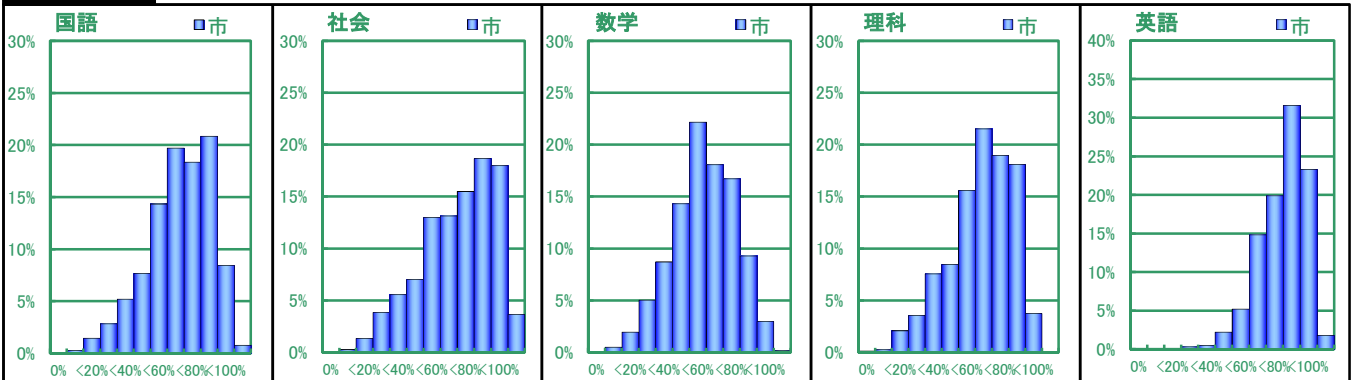
小4



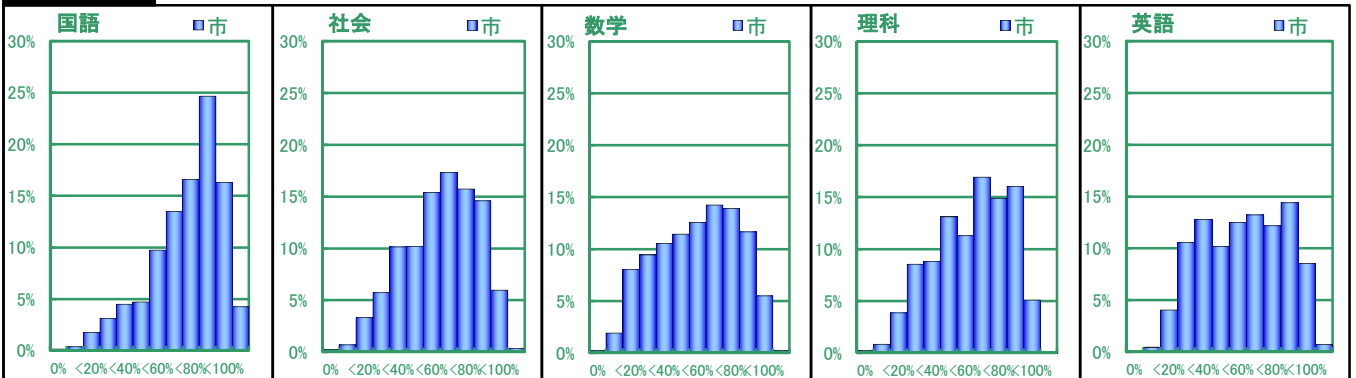
小5



中1



中2



岡山市の子どもたちの課題

◆国語の結果からわかること

◇ 課題 主語と述語の関係についての理解

〈小4の問題〉

① 次の文で、主語と述語はそれぞれ何ですか。正しい組み合わせを、あとの1～4から一つ選んで、その番号を書きましょう。

発表会で、兄が 元気に 歌う。

1	主語…発表会で	述語…歌う
2	主語…兄が	述語…歌う
3	主語…発表会で	述語…元気に
4	主語…兄が	述語…元気に

（調査問題より一部抜粋）

〈中1の問題〉

① 次の文の——線部の述語に対する主語として、適切なものを、1～4から一つ選びなさい。

画用紙に 妹が 桃の 絵を かいた。

（調査問題より一部抜粋）

平均正答率 61.5%

<目標値70%>

平均正答率 47.3%

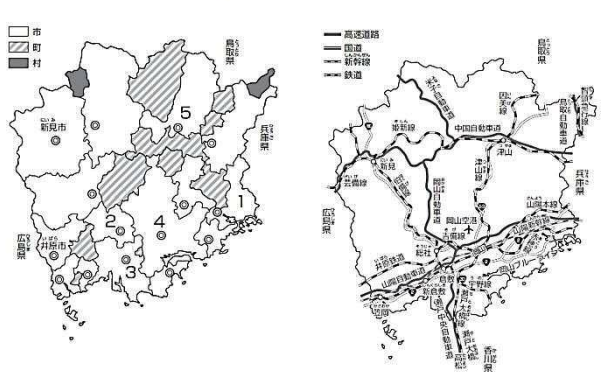
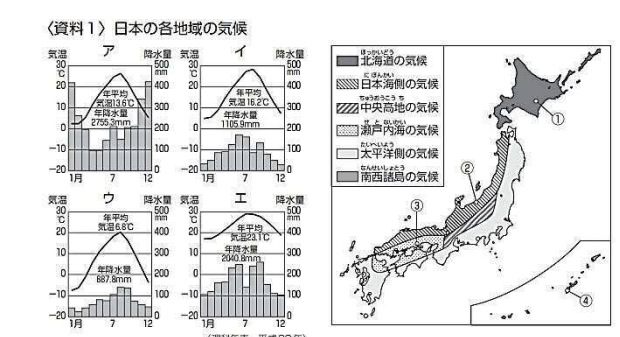
<目標値70%>

◆国語の指導の改善に向けて

◇ 主語に関する問題に関しては、改善傾向が見られるが、依然課題が残る状況である。解答類型を見ると、文の初めの文節や、述語の上の文節を主語として捉えている児童生徒が多いことが分かる。主語と述語との関係や、主語、述語のはたらきについて意識できるように指導したい。また、自分が書いた文について、伝えたいことが明確に伝わるよう、主語と述語が正しく対応しているか、見直す機会をつくることが大切である。中学校においては、文中の語句の順序や関係に関心がもてるよう、様々な文型を取り上げ、語句の順序や関係によって表現がどのように変わってくるかについても考えさせたい。

◇ 言葉の特徴やきまり、文字に関する事項などについては、学習内容として扱う学年の指導に留まらず、その後の学習や他教科、学校生活の中でも、機会を捉えて継続的に指導を行いたい。

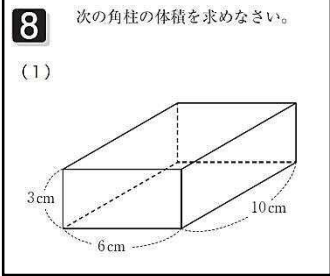
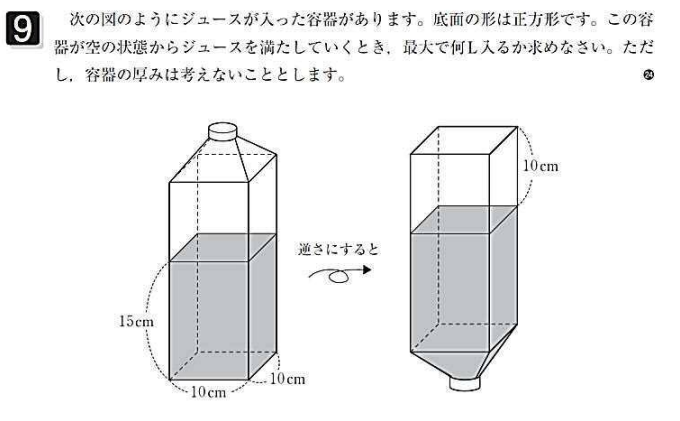
◆社会の結果からわかること

<p>◇ 課題 岡山市周辺の市名についての理解</p>	<p>◇ 課題 岡山市の気候についての資料からの読み取り</p>
<p>〈小5の問題〉</p> <p>6 みさきさんは、自分の住んでいる岡山市について調べることになりました。次の2つの地図を見て、あとの問題に答えましょう。</p>  <p>(1) 「①岡山市」「②津山市」にあてはまるものを、上の地図中の1～5からそれぞれ1つずつ選んで、その番号を書きましょう。</p> <p>〈調査問題より一部抜粋〉</p>	<p>〈中1の問題〉</p> <p>2 さとさんのクラスでは、日本の国土と気候について学習しました。次の〈資料1〉～〈資料4〉を見て、あとの問いに答えなさい。</p> <p>〈資料1〉日本の各地域の気候</p>  <p>(1) 〈資料1〉のア～エのグラフはそれぞれ、右の地図中の①～④のいずれかの都市のもので、岡山市の「瀬戸内海の気候」を表しているグラフを、ア～エから1つ選びなさい。</p> <p>〈調査問題より一部抜粋〉</p>
<p>平成29年度 平均正答率 55.7% (備前市に関する問題)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>平成30年度 平均正答率 72.9% (津山市に関する問題) 【昨年度比 +17.2%】 〈目標値70%〉</p>	<p>平成29年度 平均正答率 48.3%</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>平成30年度 平均正答率 53.4% 【昨年度比 +5.1%】 〈目標値70%〉</p>

◆社会の指導の改善に向けて

<p>◇ 自分たちの住んでいる市（区，町，村）及び我が国における自分たちの県（都，道，府）の地理的位置を解答する類似問題では、17.2ポイントも上昇している設問もあり、部分的ではあるが改善傾向にあると考えられる。市や県などの地理的位置を理解する学習では、観察，調査したり白地図にまとめたり，地図帳を活用したりして，自分が住んでいる市やその周辺，自分が住む県や47都道府県の位置を関連させて理解を深めるようにしていきたい。また，学習内容を定期的に復習する機会を設け，知識の定着を図っていきたい。</p> <p>◇ 社会では，我が国の地形や気候の概要を含む国土の自然の様子について，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連があることを踏まえて学習する。平成29年度と平成30年度の類似問題を比較すると，小幅ではあるが，5.3ポイント上昇している。今後も，このような学習を行う際には，単一の資料だけでなく，複数の資料を活用して考えることができるようすることで，社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を身に付けさせたい。</p>










◆算数・数学の結果からわかること

<p>◇ 課題 式の意味の理解</p>	<p>◇ 課題 知識の活用</p>
<p>〈小4の問題〉 平均正答率 51.5% <目標値70%></p> <p>(2) $\square \div 4 = 8$ ㊟</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 画用紙を1人に何まいかずつ配ります。4人に配るには、8まいの画用紙がひつようです。 2 あめが何かありました。4こずつふくろに入れたら、8ふくろできました。 3 何人が公園で遊んでいました。そこに4人遊びに来たので、全員で8人になりました。 4 チョコレートを1人に4こずつ配ります。何人かに配るには、8こひつようです。 <p>〈小5の問題〉 平均正答率 21.2% <目標値50%></p> <p>13 長さが16mで重さが4kgのぼうがあります。このぼう1mの重さが何kgかを求める式はどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ㊟</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 4×16 2 16×4 3 $4 \div 16$ 4 $16 \div 4$ <p style="text-align: right;">〈調査問題より一部抜粋〉</p>	<p>〈中1の問題〉 平均正答率 90.2% <目標値90%></p> <p>8 次の角柱の体積を求めなさい。</p> <p>(1)</p>  <p>平均正答率 34.5% <目標値50%></p> <p>9 次の図のようにジュースが入った容器があります。底面の形は正方形です。この容器が空の状態からジュースを満たしていくとき、最大で何L入るか求めなさい。ただし、容器の厚みは考えないこととします。 ㊟</p>  <p style="text-align: right;">〈調査問題より一部抜粋〉</p>

◆算数・数学の指導の改善に向けて

<p>◇ 小4の問題については平成29年度の類似問題より正答率は3.6ポイントの上昇、小5の問題については平成29年度と同問題よりも正答率が1.4ポイント上昇しているが、依然正答率が低い。特に小5の問題については、「4」と解答した児童の割合が57%となっている。</p> <p>式の意味を具体物や図を使って、相手に伝わるように説明することで、理解を深めることができる。そういった取組を繰り返すことが大切である。</p> <p>◇ 中1の直方体の体積を求める問題については9割を超える生徒が解くことができている。しかしながら、それを活用して解く問題については平均正答率が34.5%となっている。</p> <p>単元の最後に、学習したことを活用して解く問題を設定し、生徒が学び合いながら解決していくような授業を実施することも考えられる。</p>
--

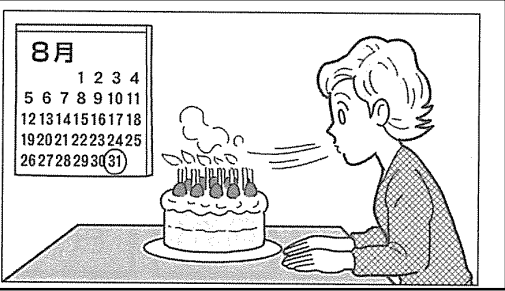
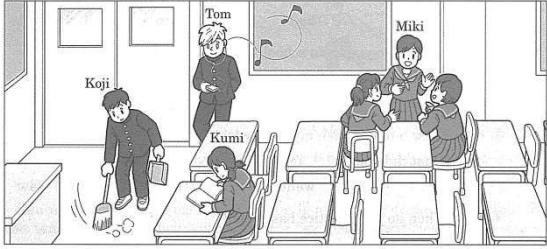
◆理科の結果からわかること

<p>◇ 課題 虫眼鏡の正しい使い方</p>	<p>◇ 課題 凸レンズの性質を日常生活と関連付けて考えること</p>																		
<p><小4の問題> 平均正答率 56.9% <小5の問題> 平均正答率 45.9% <目標値 70%></p>	<p><中2の問題> 平均正答率 53.4% <目標値 70%></p>																		
<p>(2) ゆみさんは、手に持った花をかんざすときに虫めがねを使いました。虫めがねの正しい使い方を、次の1~4から1つえらんで、その番号を書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1</p>  <p>虫めがねを目に近づけて持ち、花だけを前後に動かす。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2</p>  <p>虫めがねを花に近づけて持ち、虫めがねだけを前後に動かす。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>3</p>  <p>虫めがねを花に近づけて持ち、顔を前後に動かす。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>4</p>  <p>虫めがねと花の両方を動かす。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">〈調査問題より一部抜粋〉</p>	<p>3 新見さんは凸レンズを使って、次のような活動をしました。そのあと、凸レンズによってできる像について調べるために、実験を行いました。あとの問いに答えなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(活動)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>凸レンズで光を集めた。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>凸レンズで近くにある物を見た。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>凸レンズで遠くにある物を見た。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>凸レンズで机に蛍光灯の像をうつした。</p> </div> </div> <p>(実験)</p> <p>スクリーンにはっきりとした像ができるように、物体とスクリーンを動かした。そのときの凸レンズと物体の距離、凸レンズとスクリーンの距離、像の大きさを調べた。</p> <div style="text-align: center;">  <p>光学台</p> </div> <p>(結果)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>凸レンズと物体の距離 (cm)</th> <th>5</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>凸レンズとスクリーンの距離 (cm)</td> <td>スクリーンに像はうつらなかった。</td> <td>30</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>像のようす</td> <td>スクリーンに像はうつらなかった。</td> <td>物体より大きくなった。</td> <td>物体と同じ大きさになった。</td> <td>物体より小さくなった。</td> <td>物体より小さくなった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(考察)</p> <p>結果の表から、凸レンズと物体の距離が長くなると、凸レンズとスクリーンの距離が(ア)なり、像の大きさが(イ)なるというきまりが考えられる。</p> </div> <p>(3) 結果で、凸レンズと物体の距離が5cmのとき、スクリーンに像はうつりませんでした。しかし、凸レンズをのぞくと、物体より大きな像が同じ向きに見えました。このように見える現象は、新見さんの活動のどれと同じ現象だと考えられますか。次の1~4から1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 凸レンズで光を集めた。 2 凸レンズで近くにある物を見た。 3 凸レンズで遠くにある物を見た。 4 凸レンズで机に蛍光灯の像をうつした。 <p style="text-align: center;">〈調査問題より一部抜粋〉</p>	凸レンズと物体の距離 (cm)	5	15	20	25	30	凸レンズとスクリーンの距離 (cm)	スクリーンに像はうつらなかった。	30	20	17	15	像のようす	スクリーンに像はうつらなかった。	物体より大きくなった。	物体と同じ大きさになった。	物体より小さくなった。	物体より小さくなった。
凸レンズと物体の距離 (cm)	5	15	20	25	30														
凸レンズとスクリーンの距離 (cm)	スクリーンに像はうつらなかった。	30	20	17	15														
像のようす	スクリーンに像はうつらなかった。	物体より大きくなった。	物体と同じ大きさになった。	物体より小さくなった。	物体より小さくなった。														

◆理科の指導の改善に向けて

- ◇ 小学校では、虫眼鏡の安全な使い方や、温度計、台ばかりの目盛を正しく読み取る問題に課題が見られた。観察実験において、器具の操作方法等の確認を丁寧に正確に積み重ねる必要がある。
- ◇ 中学校2年生では、光の性質についての問題に課題が見られた。特に、凸レンズの性質を日常生活と関連付けて考える問題は、正答率が低かった。他にも身近な題材や事象について、学んだことや生活体験を活用して説明したり、考察したりする力が十分でない。
小学校の段階から、授業の中で、身近な題材や事象を取り上げ、児童生徒に興味関心をもたせたり、自分の考えをもたせたりする工夫を図っていきたい。

◆英語の結果からわかること

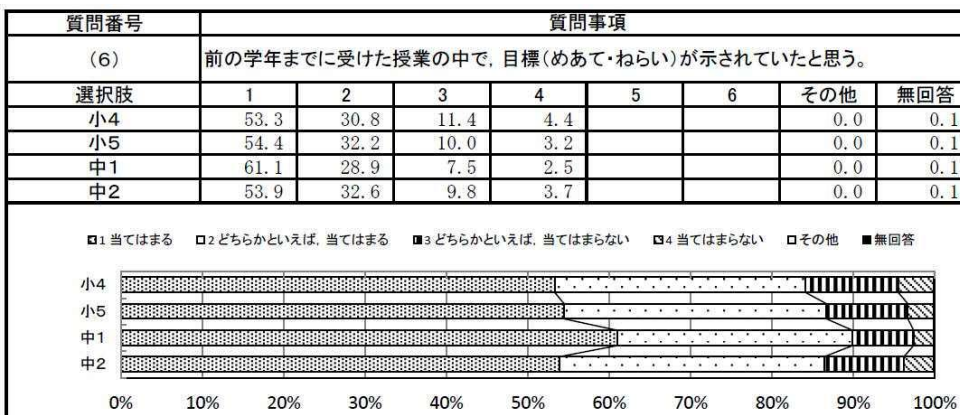
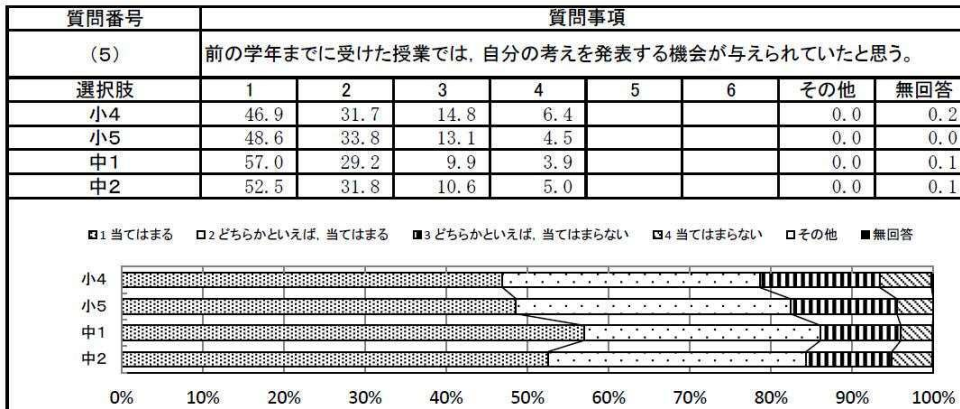
<p>◇ 課題 単語の意味理解</p>	<p>◇ 課題 対話文の流れとグラフから、適切な場所の組み合わせを判断すること</p>
<p>〈中1の問題〉 平均正答率 65.9%</p> <div data-bbox="172 454 759 743" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2)</p>  </div> <p>※誕生日の月と日を問う問題 (調査問題より一部抜粋)</p>	<p>〈中2の問題〉 平均正答率 (1) 43.8% <目標値70%> (2) 32.5% <目標値40%></p> <div data-bbox="815 454 1433 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4</p> <p>これから、メアリーとタロウが、教室のクラスメイトについて話している様子を2つ放送します。 メアリーとタロウの対話の途中でチャイムが鳴ります。次の絵をもとにして、それぞれのチャイムの部分に入る適切な英語を、3語以上の1文で書きなさい。それぞれ対話文は2回くり返します。</p>  <p>(1) _____ (2) _____</p> </div> <p>(調査問題より一部抜粋)</p>

◆英語の指導の改善に向けて

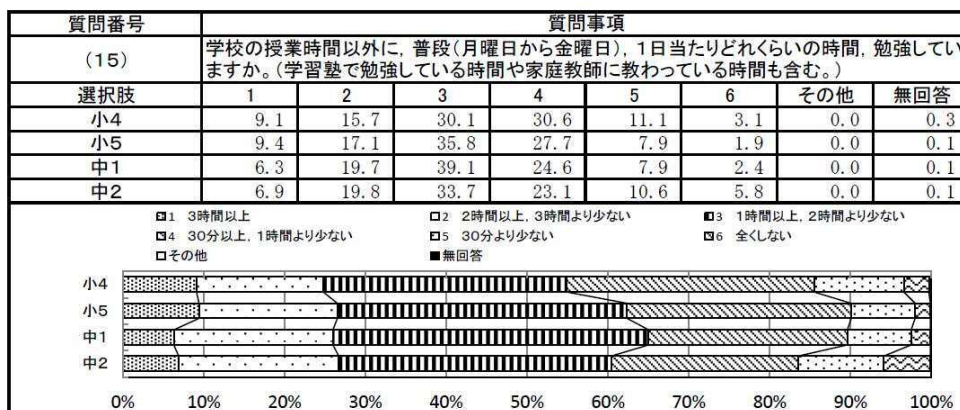
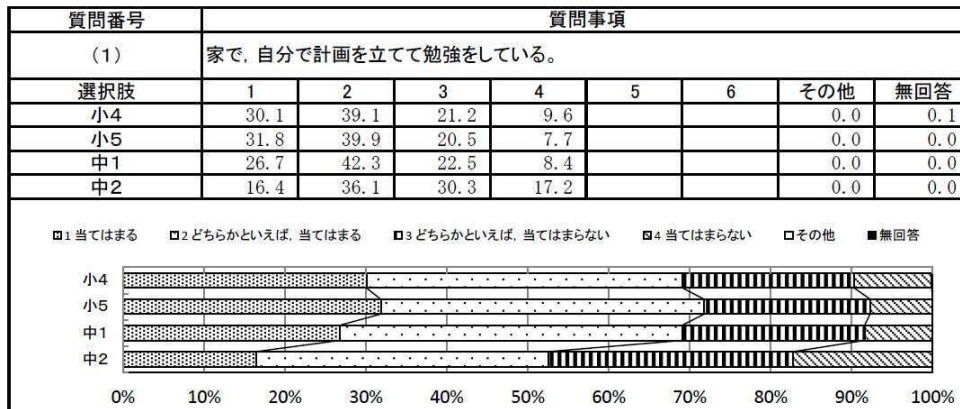
<p>◇ 中1の問題では、昨年度と同様の「月」に関する設問において、今年度も依然正答率が低くなっている。繰り返し触れる機会を設け、定着を図っていききたい。 中2の設問は、英語での対話文を聞き取り、絵をもとに対話を完成させる問題である。また、解答は記述で行うため、聞く力と書く力のどちらも求められるようになっている。誤答率及び無解答率も高いことから、どちらにも課題が見られる。英語でのやり取りによるコミュニケーション活動を充実させ、即興的な対話をする力を付けていききたい。</p> <p>◇ 全般的に英語を書く問いについて、無解答率が高くなっている。既習の語句や基本的な表現などの学習を繰り返し指導し、定着を図っていききたい。</p>
--

◆質問紙の結果からわかること

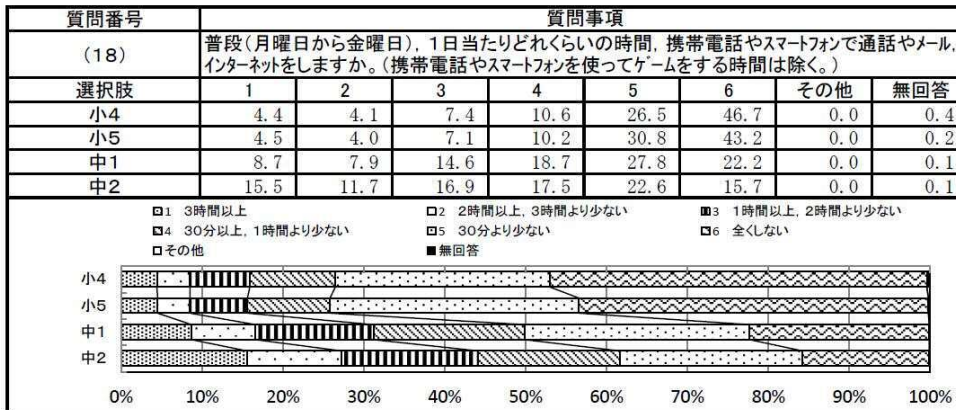
授業に関すること



家庭学習に関すること



基本的生活習慣に関すること



- ◇ 質問番号(5)「授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」、質問番号(6)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思うか」について、小学校第4学年と中学校第2学年を比較すると肯定回答がそれぞれ、5.7ポイント、2.4ポイント増加し、授業改善が図られていることが分かる。
- ◇ 質問番号(1)「家で、自分で計画を立てて勉強している」という項目について、小学校第4・5学年及び中学校第1学年の児童生徒の肯定的な回答率は高いが、中学校第2学年生徒の肯定的な回答率は低い状況にある。
- ◇ 質問番号(15)「平日、1日当たり、どのくらい勉強していたか」について、1日1時間以上勉強する児童生徒が、中学校第1学年が65.1%であるのに対して、中学校第2学年では、60.4%と4.7ポイント低下している。
- ◇ 質問番号(18)「平日、1日当たり、どのくらい携帯電話やスマートフォンを使用していたか」について、学年が上がるにつれて、使用時間が増加する傾向にある。中学校第2学年では、1日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する生徒の割合は44.1%である。
- ◆ 学習状況の改善に向けて
 質問紙調査の結果から、中学校においては、家庭学習に関して課題が見られる。学校全体で組織的に取り組むだけでなく、小中の連携や保護者の協力が必要である。例えば、担任や保護者が宿題の内容や提出状況を把握できる取組、オフメディアを中学校区で揃え同一期間で実施するなどの取組が考えられる。
 また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、学習への意欲や、有用性を高めることで、自発的な家庭学習が行えるようにしていく必要がある。また、授業が家庭学習とつながること、帰りの会でその日の家庭学習の計画を立てる場を設ける等、生徒が主体的に取り組むことができよう工夫することが必要である。